

# 多高通信

第185号 令和3年3月30日発行



さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 祝 43回生 卒業おめでとう!

3月1日、第43回卒業証書授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症予防のため残念ながら在校生の参加は叶いませんでしたが、保護者の皆様方に見守られながら、普通科233名、災害科学科24名、計257名が本校を巣立っていきましました。

### ■送辞 2年7組 櫻井乃綾(多賀城中出身)

先輩方の姿は常に私たちの目標であり、心の支えでもありました。先輩方との思い出は、私たちが在校生としての宝物です。その先輩方が最上級生としてまさに実りの時期を迎えようとしたとき、学校が一時休校となり、先輩方とさらに思い出を作りたいと思っていた私たちも、充実した高校生活を送れない日々が続きました。それでも先輩方はそうした困難に屈せず、いつ何時も熱心に学業に励む姿を見せてくださり、自ら描いた夢の実現のために努力を惜しまずに取り組むことの尊さを私たち後輩に示して下さっていました。

どうぞこれからの多賀城高校のことは、私たちが在校生に任せさせていただきます。先輩方から学んだ多賀城高校の伝統を後輩たちに受け継いでいき、より良い学校にしていくよう頑張りますので、先輩方はどうか前を向いて強く歩み出してください。

### ■答辞

#### 3年5組 箭子優羽 (高砂中出身)

卒業するにあたって断言できることは、私たちの高校生活はたくさんのおかげで充実した



たものになった、ということ。多賀城高校で過ごした日々を思い出として語りつくすにはとても時間がかかるでしょう。それほどたくさんの方の出来事と成長があった三年間でした。

自粛生活や部活動の大会の中止など、やり場のない気持ちを抱えたまま受験勉強を始めることとなりました。しかし、そんな状態でも、先生方や家族の力を借りて、自分たちなりに工夫して過ごすことができました。多高三大行事は、例年よりは小規模ではあるもの、みんなと協力して成功させることができました。

先輩、友人、先生、家族、私たちを支えてくれたすべての皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。そして、私たちのこれからの未来に思いを馳せて、答辞いたします。

### 語学研究部

#### 仙台観光国際協会 「国際理解プログラム」参加

1月18日、仙台観光国際協会の「国際理解プログラム」に Zoom を利用して参加しました。ニュージールランド出身の仙台在住の Page Lewis さんを講師にお迎えし、日本とニュージールランドの高校生の生活や文化の違いなどについて、質疑応答を交えながら交流することができました。

### ■2年3組 鈴木柚花 (田子中出身)

ニュージールランドの文化や災害についてたくさんのお話を聞くことができました。学校がとて自由で科目選択ができるのが良いなと思いました。海外の学校に憧れているので、私もニュージールランドの学校に通ってみたいと思いました。選挙権や運転免許、お酒が飲める年齢など、日本と似ているようで似ていない部分も多くあることを知りました。



防災訓練を地域でほとんど行わず、近所同士の顔も名前も詳しく知らないというのは正直驚きました。日本では昔から、近所同士のつながりを大切にしたり、お隣さんに挨拶したりすることなど、地域のコミュニケーションを大切にすることが普通だと思っていたので、国によって地域のつながりが全然違うのだなと思いました。一方で、東日本大震災の2週間前にニュージールランドでも大きな災害が起こっていたことを知り、それぞれの災害の違いや被害状況を詳しく調べてみたいと思いました。

### 災害科学科 くらしと安全特別授業

#### 防災タイムライン

1月28日、東京法令出版東北支社長の杉山克洋氏を特別講師にお迎えし、災害科学科1年生を対象に、くらしと安全Aの特別授業「防災タイムライン」を行いました。



「防災タイムライン」の取組は、昨年11月11日に河北新報社が主催する「むすび塾(第99回)」で、災害科学科8名が、東日本大震災と一昨年の台風19号などの体験を踏まえ、風水害の危険が迫った場合の自分と家族の避難行動について専門家と意見を交わし、ワークショップを行いました。今回は、この時受講した8名がファシリテーター役として、事前に自分の住んでいる地域のハザードマップや家族との話し合いをもとに、それぞれの「マイ・タイムライン」作りを取り組みました。班ごとの話し合いを行ったあと、杉山氏から「常日頃からの避難経路の確認と検討が必要です。」など助言をいただき有意義な特別授業となりました。

今後はこの取組を発展させ、地域や他の中・高校生との交流に生かしていきたいと考えています。

### ■1年7組 三浦誠鈴(館中出身)

「いつ」「どこで」「どんな災害が起きるか」は誰にも分かりませんが、どんな災害が襲ってきても、事前に備えておけば自分の命はもちろん大切な家族の命を救うことができます。今回の防災タイムラインの作成は、災害を学び身近に感じている私たちがだからこそ、一人ひとりが災害を決して恐れず、真剣に災害と向き合い、考えることができた機会でした。いつかまた大災害が起きたとしても、恐れずあせらず、正しい行動ができると思います。

### 吹奏楽部

#### ジュニア管打楽器コンクール 予選考会報告

### ■1年7組 玉川淳之介

2月13・14日に行われた「第23回ジュニア管打楽器コンクール予選考会」において、アンサンブル部門は金管8重奏が、ソロ部門はサクソフォンとマリリンバが、それぞれ本選考会である全国大会へと出場できることとなりました。

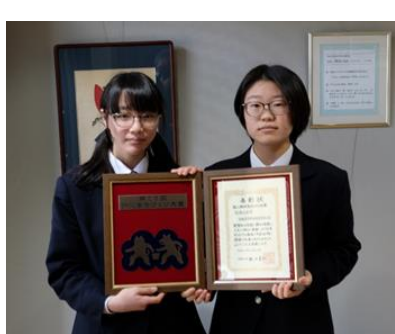
した。普段は部員全員で音を奏でていますが、自分と向き合っていく音色と音楽表現を高めていくソロでは担当楽器の仕組みや楽曲の特徴などを深く感じることができました。8人編成で出場したアンサンブルでは、1人の持つ責任が大きくなる分、練習でも上手いかない部分がたくさんありましたが、全員で集まり話し合いをしながら練習し、よりよい表現を追求できたと思っています。私自身、今まで隣の音を聞いていた気になっていただけで吹く上での気遣いが足りなかったという新しい発見もありました。今大会は録音審査のため、結果が出るまでの間は緊張が続きませんでした。予選通過の文字を見た時は本当に嬉しく、頑張ってきたよかったです。



#### 第25回防災まちづくり大賞

#### 総務大臣賞受賞

総務省が主催し、防災・減災に関する優れた取組を表彰する「第25回防災まちづくり大賞」に、多賀城高校が最高賞である「総務大臣賞」に選ばれました。この賞は、地域に根ざした活動や、災害に強い安全なまちづくり、人づくりの推進に顕著な功績のあった団体を顕彰するもので、本校は「東日本大震災の教訓を未来に伝え国内外の防災・減災に貢献する人材を育てる学校づくり」という、これまでの本校の取組、そして現在の活動を評価されたの受賞となりました。



賞状と盾を持つ生徒会長の櫻井乃綾さん(左)と副会長の金谷紅さん(右)